

まえがき

2年前から始まりました技術職員改革の検討については、令和6年10月1日制度開始に向けて、本部が主催する技術支援企画委員会において議論されているところです。この議論に併せて正規の技術職員の新規採用は凍結されていることから、技術室では定員2名が足りていない状況下での1年間となりました。技術職員の長期キャリアを形成するために新卒者を早期に採用し、技術室全体の年齢的なバランスを保ちたいところですが、現状としてそれがままならない状況であります。今回の技術職員改革が真に目指すものは、技術職員のモチベーションアップに繋がるものであってほしいと願っております。

また、近年、理系学生や既卒技術者を民間企業が顕著に採用していることから、大学の教室系技術職員に就職する選択は敬遠傾向が続いており、京都大学で現在就業している技術職員の待遇改善だけでなく、長い将来を見据えて次の時代を担う若い技術者を確保するための改善も必須と考えます。魅力ある技術職員改革となることを切に望んでおります。

さて、技術室の令和4年度の活動成果をまとめた技術室報告第24号が完成しました。ご高覧いただき技術職員それぞれの支援実績や持っているスキルなどを知っていただくと幸いです。技術室では、各技術職員が専門技術を高めるべく、各種講習会や研修を受講し近年の先端技術を修得することで技術支援のさらなる高度化を図ってきました。これまで第1号から第23号まで先輩技術職員の活動も含めて、すべてが技術室の活動データベースと呼べるもので、技術職員の様々な取り組み、創意工夫、多種多様な業務が掲載されています。過去に掲載されたのも併せてご高覧いただければ幸いです。

報告書の発刊にあたり、多大なご尽力とご支援をいただきました執行部、技術専門委員会をはじめ教員、事務職員、そして関係者の方々にここに心より厚くお礼申し上げます。

令和5年(2023年) 8月

京都大学防災研究所 技術室

室長 吉川 昌宏